

事業者名 奈良交通株式会社

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度)

| 申請番号 | 運行系統名 | 起 点 | 主 な 経 由 地 | 終 点 | 系 統 | | | 年 間 | | | 輸 送 実 績 | | | 経 常 費 用 | | | 平 均 乗 車 密 度 算 定 | | | 市町村による回数 乗購入等の有無 | 備 考 |
|------|-------|-----|-----------|-----|---------|---------|---------|--------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------|------------|-----|---------------------|-----|
| | | | | | 運行回数(回) | キロ程(km) | 乗車人員(人) | 1人平均乗車キロ(km) | 輸送人キロ(人キロ) | 運送収入(円) | 運送キロ(D)(円) | 営業外収益(E)(円) | 1系統当り経常費用(円) | 運賃改定前x日数の平均賃率(円) | 運賃改定後x日数の平均賃率(円) | 平均乗車密度(B) (C)×(F) (G) | 平均賃率(F)(円) | 輸送量(A)×(G) | | | |
| 第1号 | 和東大津 | 加茂駅 | 和東河原 | 小杉 | 16.1 | 12.6 | 57,103 | 5.1 | 291,225.3 | 17,163,670 | 148,216.6 | 1,547,381 | 1,671,883 | 78,519,226 | 54,46円×(1-10/110)×365日 365日 | 1.9 | 58.00 | 23.9 | 有・無 | | |
| 合 計 | | | | | 16.1 | | 57,103 | | 291,225.3 | 17,163,670 | 148,216.6 | 1,547,381 | 1,671,883 | 78,519,226 | | | | 有・無 | | | |

実施調査日 令和4年12月12日～21日、令和5年1月10日～19日実施

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間(補助金交付基額第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごと(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通路線維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と別列できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること、なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実乗客に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、乗車人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(連年間の)運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること、また、実態調査日についても記載すること。
- 乗車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
- 1系統当たり経常費用は、補助対象事業者の乗車走行キロ当たり経常費用(当該系統の乗車走行キロを算じたもの)とする。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより計算して算出すること、なお、この場合にあっては、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は(D)÷(F)と計算し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、乗車走行キロ、運送キロ及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 1系統による回数乗購入等の有無は、運送収入に含まれるものの有無について記載すること。

事業者名 奈良交通株式会社

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度)

| 申請番号 | 運行系統名 | 起 点 | 主 な 経 由 地 | 終 点 | 輸 送 実 績 | | 輸 送 実 績 | | 輸 送 実 績 | | 1系統当り 経常費用 (円) | 平均乗車密度 算定 平均賃率 (円) | 輸 送 量 (A) × (G) | 市町村に よる回数 乗購入等 の有無 | 備 考 | | |
|------|-------|-----|-----------|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------------|----------------|----------------------|-----------------------------|--------------------|-----------------------------|------------|-------------|------------------------|
| | | | | | 運行回数 (回) | キロ程 (km) | 乗車人員 (人) | 輸送人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送人キロ (人キロ) | | | | | | 運送収入 (円) | 運送支出 (円) |
| 第1号 | 和東大津 | 加茂駅 | 和東河原 | 小杉 | 16.1 | 12.6 | 57,103 | 57,103 | 6.7 | 382,590.1 | 22,488,670 | 148,216.6 | 1,547,381 | 1,071,883 | 25,707,934 | 有 | 運送収入に運輸助金5,325,000円含む。 |
| 合 計 | | | | | 16.1 | | 57,103 | 57,103 | | 382,590.1 | 22,488,670 | 148,216.6 | 1,547,381 | 1,071,883 | 25,707,934 | 有・無 | |

運送調査日 令和4年12月12日～21日、令和4年10月10日～19日

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間(補助金交付基額第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通路線維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と別列でできる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること、なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実測値に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、乗車人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(連年間の)運送収入について、原則として年1回以上実地調査を実施し、その結果により算出すること、また、実地調査日についても記載すること。
- 乗車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
- 系統当たり経常費用は、補助対象事業者の乗車走行キロ当たり経常費用(当該系統の乗車走行キロを算じたもの)とする。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより計算して算出すること、ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は当該運行系統の平均賃率は、算中の計算式により算出すること、なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)×(F)と計算し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合は運賃改定があった場合又は乗車走行キロ、運送収入、乗車走行キロ、運送収入、乗車走行キロ、運送収入及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 各運行系統のキロ程、乗車人員、輸送人員、輸送収入、乗車走行キロ、運送収入、乗車走行キロ、運送収入及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 1系統による回数乗購入等の有無は、運送収入に含まれるものの有無について記載すること。

申請者名 京島交通株式会社

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和6年度)

| 申請番号 | 運行系統名 | 起 点 | 主な経路 | 終 点 | 系統 | | 年 間 | | 輸 送 実 績 | | 経 常 費 用 (円) | 平 均 乗 車 密 度 運賃改定前× の平均賃率 | 平均賃率 (円) | 乗 車 密 度 運賃改定後× の平均賃率 | 輸 送 量 (A)×(G) | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 | 備 考 | |
|------|-------|-----|------|-------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------------|-------------------|----------------|--------------------------------|-------------|----------------------------|------------------|-----------------------------|-----|--------------------|
| | | | | | キロ程 (km) | 運行回 (回) | 乗車人員 (人) | 輸送人員 (人) | 輸送人員 平均 (人) | 輸送人員 平均 (人) | | | | | | | | 乗車走行キロ (C) (km) |
| 第1号 | 和泉木津 | 加茂駅 | 和泉河原 | 和泉町原山 | 9.7 | 11.8 | 50,384 | 4.1 | 206,574 | 15,011,167 | 83,992.3 | 876,879 | 947,433 | 16,835,479 | 72.19 | 28.3 | 有 | 令和5年4月1日 運行計画変更 |
| 合計 | | | | | | | 50,384 | | 206,574 | 15,011,167 | 83,992.3 | 876,879 | 947,433 | 16,835,479 | | | 有・無 | |

実施調査日: 令和4年2月12日～21日、令和4年6月10日～19日実施

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画(認定申請書)の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経路(他)の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること、なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1周を運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実施調査に基づいて記載すること。
- 輸送人員は、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運賃収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(基準期間)の運賃収入について、原則として年1回以上実施調査を実施し、その結果により算出すること、また、実施調査日についても記載すること。
- 1系統当たり経常費用は、補助対象事業者の乗車走行キロ当たり経常費用に当該系統に当該系統の乗車走行キロを乗じたものとする。
- 平均賃率は、停留所相互間運賃額×停留所相互間総キロにより該単位まで算出すること(該未満切り捨て)、ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は、その計算式により算出すること、なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)×(F)と計算し、その値について、小数第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人員、乗車走行キロ、運賃収入、乗車走行キロ、運賃収入及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運賃収入に含まれるものの有無について記載すること。

| | | |
|----------|----------------------|----------------------------|
| 事業者名 | 京阪京都交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 管理部 企画課 | (責任者役職・氏名) 管理部長 栗山 準一 印 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 管理部 企画課 | (責任者役職・氏名) 管理部長 栗山 準一 印 |

実績

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度)

輸送実績を一列に基づき計上

| 申請 番号 | 運行 系統名 | 起点 | 主な 経由地 | 終 点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 輸送人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸 送 人キロ (人キロ) | 運送収入 (円) | 実 走 行 キロ (km) | 運送雑収 (円) | 営業外収益 (円) | 計 (B)+(D)+(E) | 1系統当たり 経常費用 (円) | 経常費用 | 平均乗車 密度 (A)×(G) ÷ (B)×(F) | 輸送量 (A)×(G) | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 | 備 考 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------|-----------|---------|-------------|-----------------|-------------|----------------------|---------------------|-------------|---------------------------|-------------|--------------|------------------|-----------------------|------|---------------------------------------|----------------|-----------------------------|--------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 八田線1 | JR亀岡駅南口 | 奥条・大谷 | JR團部駅西口 | 28.0 | 9.2 | 76,050 | 7.5 | 570,375.0 | 27,721,407 | 189,156.0 | 1,210,598 | 675,287 | 29,607,292 | 74,709,053 | 3.0 | 27.6 | 無 | | |
| 2 | 神吉線1 | JR八木駅 | 西所 | 神吉口 | 12.3 | 4.5 | 27,025 | 5.2 | 140,530.0 | 7,467,696 | 40,295.1 | 257,889 | 143,854 | 7,869,439 | 15,914,952 | 3.5 | 15.7 | 有 | | |
| 3 | 原・神吉線1 | JR八木駅 | 神吉上 | 原 | 17.8 | 3.0 | 28,675 | 6.9 | 197,857.5 | 7,674,620 | 38,784.2 | 248,219 | 138,460 | 8,061,299 | 15,318,207 | 5.1 | 15.3 | 有 | | |
| $\frac{48.64 \times 365}{365} = 48.64$ $\frac{(53.21 \times 365) + (52.70 \times 365)}{730} = 52.95$ $\frac{(38.90 \times 365) + (38.70 \times 365)}{730} = 38.80$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 42,863,723 | 268,235.3 | 1,716,706 | 957,601 | 45,538,030 | | | | | | |

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間（補助金交付要綱第5条で定める期間）の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごと（補助対象系統のみ記載すること）。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。
- 1系統当たり経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
- 平均乗車密度は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより算出すること（銭未滿切捨て）。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は当該運行系統の平均乗車密度は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と連算し、その値について、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるものの有無について記載すること。

| | | | |
|----------|-----------|------------|--------------------|
| 事業者名 | | 京阪京都交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) | 管理部 企画課 | (責任者役職・氏名) 栗山 準一 印 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) | 管理部 企画課 | (責任者役職・氏名) 栗山 準一 印 |

実績

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度) ※R4国庫補正予算算入分

輸送実績一覧表に基づき計上

| 運行申請番号 | 行系 | | 統計年 | 輸送実績 | | | 経緯 | | 経常費用 | 平均乗車密度算定 | | | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|---------|-------|---------|---------|------------|---------|--------------|-----------|------------|------------|---------------|------------|------------|-------------|---------------------|---------------|-----------------------|-----------|-----------|---------------------|------------|-------------------------|-----------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 起点 | 主な経由地 | | 終点 | キロ程(km) | 運行回数(A)(回) | 輸送人員(人) | 1人平均乗車キロ(km) | | 輸送人キロ(人キロ) | 運送収入(B)(円) | 実車走行キロ(C)(km) | | 運送雑収(D)(円) | 営業外収益(E)(円) | 計(B)+(D)+(E) | 1系統当たり経常費用(円) | の平均乗車密度×日数との平均乗車密度×日数 | 適用運賃定率×日数 | 適用運賃定率×日数 | 平均乗車密度(B)(C)×(F)(G) | 平均費率(F)(H) | 輸送量(A)×(G) | 市町村による回数券購入等の有無 | 特別補助算入額 | | | | | | | | |
| 1 | 八田線1 | JR龜岡駅南口 | 奥条・大谷 | JR園部駅西口 | 28.0 | 9.2 | 76,050 | 3.6 | 654,030.0 | 31,681,207 | 189,156.0 | 1,210,598 | 675,287 | 33,567,092 | 74,709,053 | 48.64 | 365 | 365 | 48.64 | 3.4 | 31.2 | 無 | 特別補助算入額 国:3,959,800円 | | | | | | | | | | |
| 2 | 神吉線1 | JR八木駅 | 西所 | 神吉口 | 12.3 | 4.5 | 27,025 | 6.6 | 178,365.0 | 9,493,696 | 40,295.1 | 257,889 | 143,854 | 9,895,439 | 15,914,952 | (53.21 × 365) + 730 | (52.70 × 365) | 730 | 52.95 | 4.4 | 19.8 | 有 | 特別補助算入額 国:2,026,000円 | | | | | | | | | | |
| 3 | 原・神吉線1 | JR八木駅 | 神吉上 | 原 | 17.8 | 3.0 | 28,675 | 8.7 | 249,472.5 | 9,643,820 | 38,784.2 | 248,219 | 138,480 | 10,030,499 | 15,318,207 | (38.90 × 365) + 730 | (38.70 × 365) | 730 | 38.80 | 6.4 | 19.2 | 有 | 特別補助算入額 国:1,969,200円 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | 53,493,030 | 957,601 | 1,716,706 | 288,235.3 | 1,081,687.5 | 50,818,723 | 268,235.3 | 957,601 | 53,493,030 | | | | | | | | | | | | |

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間（補助金交付要綱第5条で定める期間）の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごと（補助対象系統のみ記載すること）。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実績調査に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則として年1回以上実績調査を実施し、その結果により算出すること。また、実績調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。
- 1系統当たり経常費用は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
- 平均乗車密度は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と連算し、その値について、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるものの有無について記載すること。

| | | | |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 京阪京都交通株式会社 | | | |
| 事業者名 | (経営部門の名称) | (運賃改定・運賃) | (運賃改定・運賃) |
| 運行計画担当部門 | 管理部門 企画課 | 管理部長 | 栗山 準一 |
| 補助金担当部門 | 管理部門 企画課 | 管理部長 | 栗山 準一 |

計画

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和6年度)

輸送実績を一列に基づき計上

| 運行申請番号 | 運行系統名 | 主なる経路 | 終点 | キロ程(km) | 運行回数(回) | 統計年 | | 輸送乗客数(千人) | 輸送収入(万円) | 実キロ(km) | 経常利益(万円) | 経常費用(万円) | 1系統当たり経常費用(万円) | 平均乗車密度 | | | | 市町村による回数券購入等の有無 | 備考 | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|---------|-------|---------|---------|--------------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------------|-----------------|-----------|-----------|---------------|-----------|-----------|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | 1人平均乗車キロ(km) | 輸送人員(人) | | | | | | | 運送雑収(万円) | 営業外収益(万円) | 計(万円) | 1系統当たり経常費用(万円) | | | 平均乗車密度(B) | 平均乗車密度(C)×(F) | 平均乗車密度(D) | 平均乗車密度(E) | | | | | | | |
| 1 | 八田線1 | JR亀岡駅南口 | 奥条・水谷 | JR国府駅西口 | 28.0 | 9.2 | 76,050 | 7.5 | 570,375.0 | 190,176.0 | 1,217,126 | 678,928 | 29,766,347 | 75,111,912 | $\frac{48.64}{1} \times \frac{366}{366}$ $\frac{53.21 \times 366}{366} + \frac{52.70 \times 366}{732}$ | 48.64 | 3.0 | 27.6 | 無 | | | | | | | | | | | |
| 2 | 神吉線1 | JR八木駅 | 西所 | 神吉口 | 12.3 | 4.5 | 27,025 | 5.2 | 140,530.0 | 40,443.0 | 288,835 | 144,381 | 7,898,387 | 15,973,387 | $\frac{732}{732}$ | 52.95 | 3.5 | 15.7 | 有 | | | | | | | | | | | |
| 3 | 原・神吉線1 | JR八木駅 | 神吉上 | 原 | 17.8 | 3.0 | 28,675 | 7.0 | 200,725.0 | 39,162.0 | 250,637 | 139,808 | 8,141,253 | 15,467,423 | $\frac{38.80}{1} + \frac{38.70 \times 366}{732}$ | 38.80 | 5.1 | 15.3 | 有 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | 合計 | 58.1 | 131,750 | 911,630.0 | 43,116,252 | 268,781.0 | 1,726,598 | 963,117 | 45,805,967 | | | | | | | | | |

- [記載要領]
1. この書類は、補助対象期間（補助金交付要綱第 5 条で定める期間）の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること（補助対象系統のみ記載すること）。
 2. 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
 3. 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経路は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第 1 位まで記載すること。
 4. 運行回数は、補助対象期間における 1 日の平均を小数点第 1 位（第 2 位以下切り捨て）まで算出して記載すること。なお 1 往復を運行回数 1 回とし、循環系統の場合は、1 循環で運行回数 1 回とする。
 5. 1 人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて算出すること。
 6. 輸送収入は、輸送人員 × 1 人平均乗車キロにより算出すること。
 7. 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則として年 1 回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
 8. 実車走行キロは、小数点第 1 位（第 2 位以下切り捨て）まで算出して記載すること。
 9. 1 系統当たり経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
 10. 平均乗車率は、停留所相互間総運賃額 ÷ 停留所相互間総キロにより算出すること（銭未満切捨て）。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は当該運行系統の平均乗車率は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用回数から除くものとする。
 11. 平均乗車密度は (B) ÷ (C) ÷ (F) と算出し、その値について、小数点第 1 位（第 2 位以下切り捨て）まで算出すること。
 12. 備考欄には、補助対象期間中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
 13. 各運行系統のキロ程、輸送収入、輸送人員、輸送人員、輸送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
 14. 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。

| | | | |
|----------|--------------------|------------------------|---|
| 事業者名 | | 西日本ジェイアールバス株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 計画部 | (責任者役職+氏名) 部長 朝倉 恵介 | 印 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 経営企画課 | (責任者役職+氏名) 課長 丸岡 範生 | 印 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(R6年度計画)

| 申請 番号 | 運行系統 | | | | 年間輸送実績 | | | | 経常収益 | | 経常費用 | | 平均乗車密度算定 | | | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 | 備考 | | | | |
|----------|-----------|-----|------------|----|-------------|-----------------|-----------------|----------------------|---------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------|-------------------------|-----------------------|----------------------|-------------------------------------------------------|-------|---------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|----------------|
| | 運行 系統名 | 起点 | 主な 経由地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 輸送 人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人キロ (人・km) | 計画 運送収入 (B) (円) | 計画 乗車走行 キロ(C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外 収益 (E) (円) | 計 算 (B)+(D)+(E) | 1系統当り 経常費用 (円) | | | 運賃改定前 の平均乗率 ×日数× 総適用日数 | 適用 運賃改定後 の平均乗率 ×日数× 平均乗率×日数 | 平均 乗車 密度 (B) (C)×(F) (G) | 輸送量 (A)×(G) |
| | 系統名 | 起点 | 経由地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 輸送 人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人キロ (人・km) | 計画 運送収入 (B) (円) | 計画 乗車走行 キロ(C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外 収益 (E) (円) | 計 算 (B)+(D)+(E) | 1系統当り 経常費用 (円) | | | 運賃改定前 の平均乗率 ×日数× 総適用日数 | 適用 運賃改定後 の平均乗率 ×日数× 平均乗率×日数 | 平均 乗車 密度 (B) (C)×(F) (G) | 輸送量 (A)×(G) |
| 1 | 圏福線 | 松山 | 自然 運動公園 | 園部 | 17.0 | 8.0 | 56,817 | 9.0 | 511,353.0 | 20,015,753 | 100,430.4 | 10,827,956 | 131,178 | 30,774,887 | 62,275,886 | (53.64 × 365) × (53.59 × 365) 730 | 53.61 | 3.7 | 29.6 | 有 無 | |
| 2 | 圏福線 | 福知山 | 市ノ谷 | 松山 | 34.8 | 5.0 | 45,358 | 9.0 | 408,222.0 | 14,871,290 | 127,368.0 | 7,896,351 | 97,462 | 22,865,103 | 78,979,623 | 44.30 × 365 365 | 44.30 | 2.6 | 13.0 | 有 無 | |
| 3 | 高雄京北線 | 京都 | 立命 | 周山 | 33.2 | 12.9 | 350,461 | 9.3 | 3,259,297.3 | 92,738,576 | 312,281.3 | 37,378,464 | 557,070 | 130,674,110 | 193,642,511 | (41.90 × 365) + (39.75 × 365) + (39.61 × 365) 1095 | 40.42 | 7.3 | 94.1 | 有 無 | |
| 合計 | | | | | | | 452,636 | | 4,178,892.3 | 127,625,619 | 540,079.7 | 55,902,772 | 785,710 | 184,314,101 | 334,898,020 | | | | | | |

[記載要領]

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前年度、基準期間の前々年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
(但し、前年度の補助対象期間に係る生活交通ネットワーク計画の添付書類として既に提出している場合は、基準期間の前年度及び基準期間の前々年度に係る様式第1-5の添付を省略することができる。)
なお、様式1-8に基づく申請については当該年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
 - 地域協働推進事業計画の認定を受け、特例措置の適用を受ける場合は、特例措置の適用を受けようとする補助対象期間(補助金要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度に係る様式第1-5の運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(補助対象路線に係るものに限る)(但し、過去に補助対象期間に係る生活交通ネットワーク計画等の添付書類として当該年度分を既に提出している場合は、様式第1-5の添付を省略することができる。)
 - 申請番号は、生活交通ネットワーク計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
 - 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
 - 運行回数は、補助対象期間の前々年度(基準期間)中における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
 - 1人平均乗車キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
 - 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
 - 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(基準期間)の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
 - 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
 - 平均乗率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより算出すること(繰上り四捨五入)。ただし、補助対象期間中の前々年度(基準期間)に運賃改定があった場合の当該運行系統の平均乗率は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、スト及び積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日から除くものとする。
 - 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)÷(G)により算出すること。
 - 備考欄には、補助対象期間の前々年度(基準期間)中に運行回数の変更があった場合、スト及び積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。又は期間及びその内容を記載すること。
 - 各町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。
 - 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。
- (注)上記、記載要領中3.、4.期間において、前々年度(基準期間)とあるのは1.、但し書きを追加して読み替えるものとし、2.、但し書きを追加して読み替えるものとし、2.、但し書きを追加して読み替えるものとし、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度を過加して読み替えるものとする。

| | | | |
|----------|--------------------|------------------------|---|
| 事業者名 | | 西日本ジェイアールバス株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 計画部 | (兼任者役職+氏名) 部長 朝倉 恵介 | 印 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 経営企画課 | (兼任者役職+氏名) 課長 丸岡 範生 | 印 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(R6年度計画)※R4国庫補正予算入分

| 申請 番号 | 運行系統 | | | | | | | | 年間輸送実績 | | | | | | | 経常収益 | | | | 経常費用 | | | | 平均乗車密度査定 | | | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 の備考 |
|----------|-----------|-----|-----------|----|-------------|-----------------|-------------|----------------------|---------------------|--------------------------|-----------------------------|--------------------|-------------------------|------------------|----------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------|---------------------------------|----------------|---------------------|--|--|----------|--|--|------------------------------------|
| | 運行 系統名 | 起点 | 主な 経由地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 輸送人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人キロ (人・km) | 計画 運送収入 (B) (円) | 計画 乗車走行 キロ(C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外 収益 (E) (円) | 計 (B)+(D)+(E) | 1系統当り 経常費用 (円) | 運賃改定前 の平均賃率 ×日数+の平均賃率×日数 の総適用日数 | 適用 運賃改定後 の平均賃率 ×日数+の平均賃率×日数 の総適用日数 | 平均 賃率 (F) (円) | 平均乗車 密度 (B) (G) (円) | 輸送量 (A)×(G) | 乗車 回数 (A)×(G) | | | | | | |
| | 系統名 | 起点 | 経由地 | 終点 | キロ程 | 運行回数 | 輸送人員 | 1人平均乗車キロ | 輸送人キロ | 計画運送収入 | 計画乗車走行キロ | 運送雑収 | 営業外収益 | 計 | 1系統当り経常費用 | 運賃改定前の平均賃率×日数+の平均賃率×日数の総適用日数 | 適用運賃改定後の平均賃率×日数+の平均賃率×日数の総適用日数 | 平均賃率 | 平均乗車密度 | 輸送量 | 乗車回数 | | | | | | |
| 1 | 圏線 | 桜山 | 自然運動公園 | 園部 | 17.0 | 8.0 | 56,817 | 9.0 | 511,353.0 | 20,015,753 | 100,430.4 | 10,827,956 | 131,178 | 30,774,887 | 62,275,886 | (53.64 × 365) + (53.59 × 365) | 730 | 53.61 | 3.7 | 29.6 | 有(無) | | | | | | |
| 2 | 圏線 | 福知山 | 市谷 | 松山 | 34.8 | 5.0 | 45,358 | 9.0 | 408,222.0 | 19,213,290 | 127,368.0 | 7,896,351 | 97,462 | 27,207,103 | 78,979,623 | 44.30 × 365 | 365 | 44.30 | 3.4 | 17.0 | 有(無) | | | | | | |
| 3 | 高津京北線 | 京都 | 立命 | 周山 | 33.2 | 12.9 | 350,461 | 9.3 | 3,256,287.3 | 92,738,576 | 312,281.3 | 37,378,464 | 557,070 | 130,674,110 | 193,642,511 | (41.90 × 365) + (39.75 × 365) + (39.61 × 365) | 1095 | 40.42 | 7.3 | 94.1 | 有(無) | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | 452,636 | | | 131,967,619 | 540,079.7 | 55,902,772 | 785,710 | 188,656,101 | 334,898,020 | | | | | | | | | | | | |

[記載要領]

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の未日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
(但し、前年度の補助対象期間に係る生活交通ネットワーク計画の添付書類として既に提出している場合は、基準期間の前年度及び基準期間の前々年度に係る様式第1ー5の添付を省略することができる。)
- なお、様式1ー8に基づく申請については当該年度の実績について、補助対象期間の未日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
地域協働推進事業計画の認定を受け、特別措置の適用を受ける場合は、特別措置の適用を受けようとする補助対象期間(補助金要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度に係る様式第1ー5の運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(補助対象期間に係る生活交通ネットワーク計画等の添付書類として当該年度分を既に提出している場合は、様式第1ー5の添付を省略することができる。)
- 申請番号は、生活交通ネットワーク計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間の前々年度(基準期間)中における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とする。また、実態調査日についても記載すること。
- 1人平均乗車キロは、輸送人員 × 1人平均乗車キロにより算出すること。
- 輸送人キロは、輸送人員 × 1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(基準期間)の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額 ÷ 停留所相互間総キロにより算出すること(繰上切捨て)。ただし、補助対象期間中の前々年度(基準期間)に運賃改定があった場合は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、スト及び積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日から除くものとする。
- 平均乗車密度は(B) ÷ (C) ÷ (F) ÷ (D) により算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間の前々年度(基準期間)中に運行回数の変更があった場合、スト及び積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無に付き記載すること。

(注)上記、記載要領中3.、期間において、前々年度(基準期間)とあるのは、1.、但し書きに該当しない場合は、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度を追加して読み替えるものとし、2.、但し書きに該当しない場合は、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度を追加して読み替えるものとする。

| | | |
|----------|------------------|---------------------------|
| 事業者名 | 京都交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業所所長 河本 行彦 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業部課長 福井 尚朋 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度)

実態調査日

高浜線 = 平日6/30、土曜6/25、日曜6/12
 大江線 = 平日6/29、土曜5/28、日曜6/12
 福知山線 = 平日5/25、6/1、15、21、9/22、土曜6/4、日曜6/12
 夜久野線 = 平日6/1、土曜5/28、日曜9/11

| 申請 番号 | 運行 系統名 | 起点 | 主な 経過地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (A) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人員 (人) | 輸送 人キロ (人キロ) | 運送収入 (B) (円) | 実車走行 キロ(C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外収益 (E) (円) | 計 (B)+(D)+(E) | 1系統当り 経常費用 (円) | 平均乗車密度算定 | | | 備考 | |
|----------------------------|-----------|-------|-----------|--------|-------------|-----------------|----------------------|-----------------|--------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|---------------------|------------------|----------------------|---------------------------------|-----------------|-------------------|------|-----------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | 総適用日数 (円) | 平均 賃率 (円) | 平均乗 車密度 (G) | | |
| 北近畿 第1号 (北近畿第1 号) | 高浜線1 | 東舞鶴駅前 | 松尾寺駅前 | 高浜駅前 | 16.7 | 4.6 | 31,863 | 5.91 | 188,310.3 | 7,669,951 | 56,883.0 | 80,773 | 597,840 | 8,348,564 | 17,306,083 | 44.81 × (1-10/110) × 365 365 | 40.73 | 3.3 | 15.1 | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 |
| 北近畿 第2号 | 大江線1 | 西舞鶴駅前 | 地頭 | 大江駅前 | 23.6 | 4.3 | 29,092 | 8.99 | 261,537.0 | 12,046,625 | 74,717.6 | 106,098 | 785,281 | 12,938,004 | 22,732,082 | 50.67 × (1-10/110) × 365 365 | 46.06 | 3.5 | 15.0 | |
| 北近畿 第3号 | 福知山線1 | 市民病院 | 石原 | 綾部駅前 | 15.2 | 8.0 | 61,719 | 5.61 | 346,243.5 | 13,763,396 | 88,828.8 | 126,136 | 933,590 | 14,823,122 | 27,025,274 | 43.73 × (1-10/110) × 365 365 | 39.75 | 3.8 | 30.4 | |
| 北近畿 第4号 | 夜久野線1 | 福知山駅前 | 牧 | 下夜久野駅前 | 17.2 | 3.8 | 25,671 | 7.51 | 192,789.2 | 7,204,572 | 48,142.8 | 68,362 | 505,980 | 7,778,914 | 14,646,965 | 41.11 × (1-10/110) × 365 365 | 37.37 | 4.0 | 15.2 | |
| 合計 | | | | | | | 148,345 | | 988,880.0 | 40,684,544 | 268,572.2 | 381,369 | 2,822,691 | 43,888,604 | 81,710,404 | | | | | |

[記載要領]

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前々年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
(但し、前年度の補助対象期間に係る生活交通確保維持改善計画の添付書類として既に提出している場合は、基準期間の前年度及び基準期間の前々年度に係る様式第1-5の添付を省略することができる。)
なお、様式1-8に基づき申請については当該年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
 - 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
 - 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経過地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
 - 運行回数は、補助対象期間の前々年度(基準期間)中における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とする。
 - 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
 - 輸送人キロは、輸送人員 × 1人平均乗車キロにより算出すること。
 - 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(基準期間)の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
 - 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
 - 系統当たり経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の乗車走行キロを乗じたものとする。
 - 平均賃率は、停留所相互間総運賃額 ÷ 停留所相互間総キロにより算出すること(銭未満切捨て)。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
 - 平均乗車密度は(B) ÷ (C) ÷ (F)と算出し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
 - 備考欄には、補助対象期間の前々年度(基準期間)中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
 - 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
 - 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。
- (注) 上記記載要領中3.以降において、前々年度(基準期間)とあるのは1.但し書きに該当しない場合は、基準期間の前々年度、基準期間の前年度、基準期間の前々々年度、基準期間の前々々々年度を指して読み替えるものとする。

| | | |
|----------|------------------|---------------------------|
| 事業者名 | 京都交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業所所長 河本 行彦 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業部課長 福井 尚朋 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和4年度)

実態調査日

高浜線 = 平日6/30、土曜6/25、日曜6/12
 大江線 = 平日6/29、土曜5/28、日曜6/12
 福知山線 = 平日5/25,6/1,15,21,9/22、土曜6/4、日曜6/12
 夜久野線 = 平日6/1、土曜5/28、日曜9/11

| 申請 番号 | 運行 系統名 | 起点 | 主な 経過地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (A) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人員 (人) | 輸送 人キロ (人キロ) | 運送収入 (B) (円) | 実車走行 キロ(C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外収益 (E) (円) | 計 (B)+(D)+(E) | 1系統当り 経常費用 (円) | 平均乗車密度算定 | | | 備考 | |
|----------------------------|-----------|-------|-----------|--------|-------------|-----------------|----------------------|-----------------|--------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|---------------------|------------------|----------------------|-----------------------------|-----------------|-------------------------------------|------|-----------------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | 総適用日数 | 平均 賃率 (円) | 平均乗 車密度 (B) (C)×(F) (G) | | |
| 北近畿 第1号 (北近畿第1 号) | 高浜線1 | 東舞鶴駅前 | 松尾寺駅前 | 高浜駅前 | 16.7 | 4.6 | 40,424 | 5.91 | 238,905.8 | 9,730,651 | 56,883.0 | 80,773 | 597,840 | 10,409,264 | 17,306,083 | 44.81×(1-10/110)×365 365 | 40.73 | 4.1 | 18.8 | 運送収入に国追加補助 2,060,700円を算入 |
| 北近畿 第2号 | 大江線1 | 西舞鶴駅前 | 地頭 | 大江駅前 | 23.6 | 4.3 | 32,773 | 8.99 | 294,629.2 | 13,570,925 | 74,717.6 | 106,098 | 785,281 | 14,462,304 | 22,732,082 | 50.67×(1-10/110)×365 365 | 46.06 | 3.9 | 16.7 | 運送収入に国追加補助 1,324,300円を算入 |
| 北近畿 第3号 | 福知山線1 | 市民病院 | 石原 | 綾部駅前 | 15.2 | 8.0 | 66,536 | 5.61 | 373,266.9 | 14,837,396 | 88,828.8 | 126,136 | 933,590 | 15,897,122 | 27,025,274 | 43.73×(1-10/110)×365 365 | 39.75 | 4.2 | 33.6 | 運送収入に国追加補助 1,074,000円を算入 |
| 北近畿 第4号 | 夜久野線1 | 福知山駅前 | 牧 | 下夜久野駅前 | 17.2 | 3.8 | 29,868 | 7.51 | 224,308.6 | 8,382,572 | 48,142.8 | 68,362 | 505,980 | 8,956,914 | 14,646,965 | 41.11×(1-10/110)×365 365 | 37.37 | 4.6 | 17.4 | 運送収入に国追加補助 1,178,000円を算入 |
| 合計 | | | | | | | 169,601 | | 1,131,110.5 | 46,521,544 | 268,572.2 | 381,369 | 2,822,691 | 49,725,604 | 81,710,404 | | | | | |

[記載要領]

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の前々年度(基準期間)並びに基準期間の前々年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
(但し、前年度の補助対象期間に係る生活交通確保維持改善計画の添付書類として既に提出している場合は、基準期間の前年度及び基準期間の前々年度に係る様式第1-5の添付を省略することができる。)
なお、様式1-8に基づき申請については当該年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
 - 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
 - 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経過地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
 - 運行回数は、補助対象期間の前々年度(基準期間)中における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とする。
 - 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
 - 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
 - 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度(基準期間)の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
 - 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
 - 系統当たり経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の乗車走行キロを乗じたものとする。
 - 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより算出すること(銭未満切捨て)。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
 - 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と算出し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
 - 備考欄には、補助対象期間の前々年度(基準期間)中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
 - 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
 - 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。
- (注)上記記載要領中3.以降において、前々年度(基準期間)とあるのは1.但し書きに該当しない場合は、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々々年度、基準期間の前々々々年度を指して読み替えるものとし、2.但し書きに該当しない場合は、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々々年度、基準期間の前々々々年度を指して読み替えるものとする。

| | | | |
|----------|------------------|---------------------|------|
| 事業者名 | | 京都交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業所所長 | 河本行彦 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 営業部 | (責任者役職・氏名) 営業部課長 | 福井尚朋 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和6年度計画)

| 運 送 系 統 番 号 | 運 行 系 統 名 | 起 点 | 主 な 経 過 地 | 終 点 | キロ程 (km) | 運 行 回 数 (回) | 運 送 人 員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸 送 人 キ ロ (人キロ) | 運 送 入 収 入 (円) | 実 走 行 キ ロ (km) | 運 送 雑 収 (円) | 営 業 外 収 益 (円) | 収 入 計 (円) | 1系統当り 経常費用 (円) | 平 均 乗 車 費 用 | 算 定 | | | 備 考 | |
|----------------------------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|-------------|-------------------------|-------------------------|----------------------|--------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------|------------------------------|--------------------|----------------------|---------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------|--------|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 平均乗 車密度 (B) (C)×(F) (G) | 平均 賃率 (円) (F) (G) | 平均 乗車 密度 (B) (C)×(F) (G) | | |
| 北近畿 第1号 (北陸第1号) | 高浜線1 | 東舞鶴駅前 | 松尾寺駅前 | 高浜駅前 | 16.7 | 4.6 | 29,461 | 6.41 | 188,845.0 | 7,691,673 | 57,047.2 | 41,535 | 969,550 | 8,702,758 | 17,356,040 | 44.81 × (1-10/110) × 366 366 | 40.73 | 3.3 | 15.1 | ○無 | |
| 北近畿 第2号 | 大江線1 | 西舞鶴駅前 | 地頭 | 大江駅前 | 23.6 | 4.3 | 33,042 | 7.93 | 262,023.1 | 12,068,800 | 74,859.2 | 54,537 | 1,272,256 | 13,395,593 | 22,775,163 | 50.67 × (1-10/110) × 366 366 | 46.06 | 3.5 | 15.0 | ○無 | |
| 北近畿 第3号 | 福知山線1 | 市民病院 | 石原 | 線部駅前 | 15.2 | 8.0 | 57,922 | 5.99 | 346,952.8 | 13,791,395 | 89,011.2 | 64,840 | 1,512,745 | 15,368,980 | 27,080,767 | 43.73 × (1-10/110) × 365 365 | 39.75 | 3.8 | 30.4 | ○無 | |
| 北近畿 第4号 | 夜久野線1 | 福知山駅 | 牧 | 下夜久野駅前 | 17.2 | 3.8 | 28,760 | 6.72 | 193,267.2 | 7,222,587 | 48,263.2 | 35,146 | 820,242 | 8,077,975 | 14,683,595 | 41.11 × (1-10/110) × 366 366 | 37.37 | 4.0 | 15.2 | ○無 | |
| 合計 | | | | | | | 149,185 | | 991,088.1 | 40,774,455 | 269,180.8 | 196,058 | 4,574,793 | 45,545,306 | 81,895,565 | | | | | | |

[記載要領]

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 輸送収入は、停留所相互間総運賃額×停留所相互間総キロにより算出すること。
- 1系統当り経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷(B)÷(C)÷(F)と算出し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と算出し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合は運賃改定がなかった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送収入、乗車キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。

| | | |
|----------|--------------------|-------------------------------|
| 事業者名 | 丹後海陸交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) 経営企画部 | (責任者役職・氏名) 取締役経営企画部長 林 忠 広 |
| 補助金担当部門 | (担当部門の名称) 経営企画部 | (責任者役職・氏名) 取締役経営企画部長 林 忠 広 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表 (令和 4 年度)

【冬季】 (平日)令和3年11月2日・4日・11日・12日・15日・16日・17日 (土日祝)令和3年11月7日・14日 実
 実態調査日 【夏季】 (平日)令和4年6月15日・16日・21日 (土日祝)令和4年6月12日・19日 実施

| 申請 番号 | 運 行 系 統 | | 車 間 輸 送 実 績 | | | | 経 常 収 益 | | | 平 均 乗 車 密 度 算 定 | | | | 備 考 | | | | | | | |
|----------|-----------|-------------|---------------------------------------|-------------|-------------|-----------------|-----------------|----------------------|-----------------|-----------------|------------------------|---------------------|--------------------------|------------|--------------------------------|------------------------------|-------|-------------------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| | 運行 系統名 | 起 点 | 主要停留地 | 終 点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 輸送 人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人員 (人) | 輸送 収入 (円) | 実車走行 キロ (C) (km) | 送込乗 客 (D) (円) | 営業外 収 益 (E) (円) | | 計 (B) + (D) + (E) (円) | 1系統当り 経常費用 (円) | 総費用日数 | 平均乗車 密度 (A) × (B) (G) (F) (円) | 平均乗車 密度 (C) × (F) (円) | 輸 送 量 (A) × (G) (円) | 市町村に よる回数 券購入等 の有無 |
| 1 | 伊根線 | 上京津 公屋橋 | 与謝の湯病院 | 伊根 郵便局前 | 37.2 | 5.9 | 58,737 | 9.1 | 534,506.7 | 10,656,797 | 162,118.1 | 267,494 | 489,596 | 11,413,887 | 54,043,689 | 19,96×365 365 | 19.96 | 18.8 | 有(冊) | | |
| 2 | 掘入線2 | 上京津 | 与謝の湯病院 道の駅丹後の里伊根 | 掘入 | 48.4 | 4.4 | 67,181 | 11.0 | 738,991.0 | 11,853,131 | 163,477.7 | 269,738 | 493,702 | 12,616,571 | 54,496,926 | 16.62×365 + 15.56×365 730 | 16.09 | 19.8 | 有(冊) | | |
| 3 | 釜ヶ井線2 | 上京津 | 道の駅丹後の里伊根 丹後富士資料館 道の駅丹後の里伊根 | 釜ヶ井 | 55.4 | 3.9 | 39,240 | 16.1 | 631,764.0 | 9,029,663 | 161,125.4 | 265,856 | 486,598 | 9,782,117 | 53,712,763 | 14.30×365 + 14.32×365 730 | 14.31 | 15.2 | 有(冊) | | |
| 4 | 与謝線2 | 天橋立 ケーブ下 | 丹後富士資料館 道の駅丹後の里伊根 野田川海部 マイン前 | 与謝 | 22.5 | 6.9 | 54,665 | 5.3 | 289,724.5 | 8,256,256 | 112,997.4 | 186,445 | 341,252 | 8,783,953 | 37,688,813 | 28.39×365 + 28.50×365 730 | 28.44 | 17.2 | 有(冊) | | |
| 5 | 嵯山線3 | 野田川 丹海部 | 京丹後大宮駅 マイン前 | 嵯山駅 | 16.5 | 6.3 | 48,829 | 4.2 | 204,241.8 | 6,402,474 | 75,157.5 | 124,009 | 226,975 | 6,753,458 | 25,054,504 | 31.27×365 + 31.78×365 730 | 31.57 | 16.3 | 有(冊) | | |
| 6 | 海岸線2 | マイン前 | 嵯山駅 掘入 平川屋敷よし野の里 | 釜ヶ井 | 39.2 | 6.4 | 70,829 | 10.5 | 743,704.5 | 9,999,671 | 185,191.4 | 305,565 | 559,278 | 10,884,514 | 61,735,405 | 13.50×365 + 13.38×365 730 | 13.44 | 25.6 | 有(冊) | | |
| 7 | 掘入循環線 | 嵯山 | 掘入 小浜 | 嵯山駅 小浜 | 39.8 | 6.6 | 98,076 | 9.4 | 921,914.4 | 12,631,646 | 195,036.7 | 321,810 | 589,010 | 13,542,466 | 65,017,434 | 13.85×365 + 13.45×365 730 | 13.65 | 31.0 | 有(冊) | | |
| 8 | 久美浜線 | マイン前 | 嵯山駅 久美浜駅前 | 久美浜駅 釜ヶ井 | 26.0 | 5.3 | 42,536 | 7.2 | 306,259.2 | 5,623,933 | 101,088.7 | 166,796 | 305,287 | 6,096,016 | 33,698,929 | 18.31×365 365 | 18.31 | 15.9 | 有(冊) | | |
| 9 | 丹後嵯山線 | マイン前 | 嵯山駅 掘入 平川屋敷よし野の里 | 釜ヶ井 | 38.9 | 4.6 | 49,235 | 10.5 | 516,967.5 | 7,128,692 | 132,408.5 | 218,474 | 399,873 | 7,747,039 | 44,139,697 | 13.76×365 365 | 13.76 | 17.9 | 有(冊) | | |
| 合計 | | | | | 323.9 | | 529,128 | | 4,888,073.6 | 81,582,263 | 1,288,601.4 | 2,126,187 | 3,891,571 | 87,600,021 | 429,568,160 | | | | | | |

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間 (補助金交付要綱第 5 条で定める期間) の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること (補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第 1 位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における 1 日の平均を小数点第 1 位 (第 2 位以下切り捨て) まで算出して記載すること。なお 1 往復を運行回数 1 回とし、循環系統の場合は、1 循環で運行回数 1 回とする。
- 1 人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
- 輸送人員キロは、輸送人員 × 1 人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則として年 1 回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第 1 位 (第 2 位以下切り捨て) まで算出して記載すること。
- 1 系統当り経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の平均乗車密度を乗じたものとする。
- 平均乗車率は、停留所相互間総運賃額 × 停留所相互間総キロにより算出すること (銭未満切り捨て)。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合の当該運行系統の平均乗車率は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は (B) ÷ (C) ÷ (F) と計算し、その値について、小数点第 1 位 (第 2 位以下切り捨て) まで算出すること。

| | | | |
|----------|--|--------------------|--|
| 事業者名 | | 丹後海陸交通株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | | (担当部門の名称) 経営企画部 | |
| 補助金担当部門 | | (担当部門の名称) 経営企画部 | |
| | | 取締役経営企画部長 林 忠 広 | |
| | | 取締役経営企画部長 林 忠 広 | |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表 (令和 4 年度)

【冬季】 (平日)令和3年11月2日・4日・11日・12日・15日・16日・17日 (土日祝)令和3年11月7日・14日 実
 実態調査日 【夏季】 (平日)令和4年6月15日・16日・21日・22日 (土日祝)令和4年6月12日・19日 実施

| 申請 番号 | 運行 系統名 | 起点 | 主な経由地 | 終点 | キロ程 (km) | 運行 回数 (回) | 年間輸送実績 | | | | 経常収益 | | | 平均乗車密度算定 | | | | 備考 |
|----------|-----------|--------------|-----------------------------------------|------------------|-------------|-----------------|----------------------|---------------------|--------------------|------------------------|--------------------|-------------------------|--------------------------------|----------------------|-------|--------------------|---------------------------------------------------|----|
| | | | | | | | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸送 人キロ (人・km) | 運送収入 (B) (円) | 実車走行 キロ (C) (km) | 運送雑収 (D) (円) | 営業外 収益 (E) (円) | 計 (B) + (D) + (E) (円) | 1系統当り 経常費用 (円) | 総費用日数 | 平均賃率 (F) (円) | 平均乗車 密度 (A) × (B) (C) × (F) (円) | |
| 1 | 伊根線 | 上京津 公屋橋 | 与津の湯病院 伊根 郵便局前 | 伊根 郵便局前 | 37.2 | 5.9 | 11.3 | 663,728.1 | 13,306,497 | 162,118.1 | 267,494 | 489,596 | 54,043,689 | 19.96 | 4.1 | 24.1 | 有(冊) 国庫補助 2,649,700円 | |
| 2 | 浦入線2 | 上京津 | 与津の湯病院 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 | 浦入 | 48.4 | 4.4 | 11.0 | 738,991.0 | 11,853,131 | 163,477.7 | 269,738 | 493,702 | 54,496,926 | 16.09 | 4.5 | 19.8 | 有(冊) | |
| 3 | 釜ヶ井線2 | 上京津 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 釜ヶ井 | 釜ヶ井 | 55.4 | 3.9 | 18.9 | 741,636.0 | 10,630,663 | 161,125.4 | 265,856 | 486,598 | 53,712,763 | 14.31 | 4.6 | 17.9 | 有(冊) 国庫補助 1,601,000円 | |
| 4 | 与津線2 | 天橋立 ケーブ山下 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 クアハウス程志 野田川浦前 | 与津 | 22.5 | 6.9 | 7.1 | 388,121.5 | 11,017,256 | 112,997.4 | 186,445 | 341,252 | 37,668,813 | 28.44 | 3.4 | 23.4 | 有(冊) 国庫補助 2,761,000円 | |
| 5 | 峰山線3 | 野田川 丹海部 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 峰山駅 メイン前 | 峰山駅 メイン前 | 16.5 | 6.3 | 5.5 | 267,459.5 | 8,367,574 | 75,157.5 | 124,009 | 226,975 | 25,054,504 | 31.57 | 3.5 | 22.0 | 有(冊) 国庫補助 1,965,100円 | |
| 6 | 海岸線2 | メイン前 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 峰山駅 久美浜駅前 | 峰山駅 久美浜駅前 | 39.2 | 6.4 | 13.0 | 920,777.0 | 12,347,671 | 185,191.4 | 305,565 | 559,278 | 61,735,405 | 13.44 | 4.9 | 31.3 | 有(冊) 国庫補助 2,548,000円 | |
| 7 | 間入循環線 | 峰山 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 間入 小浜 | 間入 小浜 | 39.8 | 6.6 | 10.2 | 1,000,375.2 | 13,690,046 | 195,036.7 | 321,810 | 589,010 | 65,017,434 | 13.65 | 5.1 | 33.6 | 有(冊) 国庫補助 1,058,400円 | |
| 8 | 久美浜線 | メイン前 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 峰山駅 久美浜駅前 | 峰山駅 久美浜駅前 | 26.0 | 5.3 | 7.7 | 327,527.2 | 6,001,433 | 101,088.7 | 166,796 | 305,287 | 33,698,929 | 18.31 | 3.2 | 16.9 | 有(冊) 国庫補助 377,500円 | |
| 9 | 丹後峰山線 | メイン前 | 与津の湯伊根 道の駅浦入の里伊根 峰山駅 平川屋敷よし野の里 | 峰山駅 平川屋敷よし野の里 | 38.9 | 4.6 | 13.1 | 644,978.5 | 8,889,992 | 132,408.5 | 218,474 | 399,873 | 44,139,697 | 13.76 | 4.8 | 22.0 | 有(冊) 国庫補助 1,761,300円 | |
| 合計 | | | | | 323.9 | 529,128 | 5,693,594.0 | 96,104,263 | 1,288,601.4 | 1,226,187 | 3,891,571 | 102,122,021 | 429,568,160 | | | | | |

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごと(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
- 1系統当り経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の運送収入を乗じたものとする。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより賃率位まで算出すること(銭未満切り捨て)。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合の当該運行系統の平均賃率は、表中の計算式により算出すること。なお、この場合において、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった日は適用日数から除くものとする。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と連算し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。

| | | | |
|--------|-----------|------------|------|
| 事業者名 | | 丹後海陸交通株式会社 | |
| 運行計画部門 | (担当部門の名称) | 経営企画部 | 林 忠広 |
| 補助金部門 | (担当部門の名称) | 経営企画部 | 林 忠広 |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表(令和6年度)

【冬季】 実施
【夏季】 実施

| 申請番号 | 運行系統名 | 起点 | 主な経過地 | 終点 | キロ程(km) | 運行回数(回) | 年 間 輸 送 実 績 | | | 経 常 収 益 | | | 平均乗車密度算定 | | | 備考 | | |
|------|--------|----------|----------------------------|--------|---------|---------|-------------|--------------|-------------|------------|------------|-------------|-----------------|-----------------|---------------------|-----|------------|------------|
| | | | | | | | 輸送人員(人) | 1人平均乗車キロ(km) | 輸送人キロ(人キロ) | 運送収入(B)(円) | 運送雑収(D)(円) | 営業外収益(E)(円) | 計(B)+(D)+(E)(円) | 1系統当り経常費用(F)(円) | 平均乗車密度(B)(C)×(F)(G) | | 平均賃率(F)(円) | 輸送量(A)×(G) |
| 1 | 伊根線 | 上宮津公民館 | 与謝の海病院 | 伊根郵便局前 | 37.4 | 6.4 | 58,737 | 9.8 | 575,622.6 | 11,667,542 | 292,407 | 536,080 | 12,496,029 | 59,171,533 | 20.17 | 3.2 | 20.4 | 有・無 |
| 2 | 蒲入線2 | 上宮津 | 与謝の海病院 逆の舟井里の里伊根 | 蒲入 | 48.6 | 7.0 | 67,181 | 18.4 | 1,236,130.4 | 19,137,363 | 435,912 | 796,457 | 20,369,732 | 87,993,438 | 15.47 | 4.6 | 32.2 | 有・無 |
| 3 | 与謝線2 | 天橋立ケーブル下 | 与謝の海病院 クワハス線 野田(伊根側) | 与謝 | 22.5 | 6.9 | 54,685 | 5.3 | 289,724.5 | 8,275,883 | 188,667 | 342,518 | 8,805,088 | 37,762,220 | 28.44 | 2.5 | 17.2 | 有・無 |
| 4 | 峰山線3 | 野田川丹海前 | 舟井大宮駅 メイン前 | 峰山駅 | 16.5 | 6.3 | 48,629 | 4.1 | 199,378.9 | 6,417,058 | 124,550 | 227,441 | 6,769,049 | 25,114,408 | 31.57 | 2.6 | 16.3 | 有・無 |
| 5 | 海岸線2 | メイン前 | 峰山駅 久美浜病院前 久美浜駅前 | 経ヶ岬 | 40.7 | 6.4 | 70,829 | 11.1 | 786,201.9 | 10,322,249 | 315,140 | 577,570 | 11,214,959 | 63,733,698 | 13.03 | 4.1 | 28.2 | 有・無 |
| 6 | 間人循環線3 | 峰山 | 間人小英 アミテ・間野行前 | 峰山駅 | 41.3 | 6.6 | 98,076 | 9.9 | 970,952.4 | 13,011,645 | 332,022 | 606,847 | 13,950,514 | 66,981,758 | 13.32 | 4.8 | 31.6 | 有・無 |
| 7 | 久美浜線 | メイン前 | 峰山駅 久美浜病院前 | 久美浜駅 | 26.0 | 5.3 | 42,536 | 7.2 | 306,259.2 | 5,623,807 | 167,020 | 304,781 | 6,095,608 | 33,698,695 | 18.31 | 3.0 | 15.9 | 有・無 |
| 8 | 丹後峰山線 | メイン前 | 峰山駅 市川原(北)駅の里 | 経ヶ岬 | 38.9 | 4.6 | 49,235 | 10.4 | 512,044.0 | 7,089,247 | 217,254 | 397,528 | 7,704,029 | 43,901,111 | 13.83 | 3.8 | 17.4 | 有・無 |
| 合計 | | | | | | | 489,888 | | 4,876,313.9 | 81,544,794 | 2,070,972 | 3,789,222 | 87,404,988 | 418,356,861 | | | | |

【記載要領】

- この種類は、補助対象期間(補助金交付要綱第5条で定める期間)の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること(補助対象系統のみ記載すること)。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとする。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由地は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。
- 運行回数は、補助対象期間における1日の平均を小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環で運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実績調査に基づいて記載すること。
- 輸送人キロは、輸送人員×1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の運送収入について、原則して年1回以上実績調査を実施し、その結果により算出すること。また、実績調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出して記載すること。
- 1系統当り経常費用は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の実車走行キロをもって算出すること(繰上り繰下り捨て)。ただし、補助対象期間中に運賃改定があった場合は、表中の計算式により算出すること。
- 平均賃率は、停留所相互間総運賃額÷停留所相互間総キロにより算出すること。
- 平均乗車密度は(B)÷(C)÷(F)と計算し、その値について、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間については必ず記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。

様式第1-5 (日本工業規格A列4種)

| | | | |
|----------|-----------|----------|------------|
| 事業名 | | 京阪バス株式会社 | |
| 運行計画担当部門 | (担当部門の名称) | 経営企画室 | 代表部長 橋野 基宣 |
| 補助担当部門 | (担当部門の名称) | 経営企画室 | 代表部長 橋野 基宣 |
| | | 印 | |

運行系統別輸送実績及び平均乗車密度算定表 (令和2年度)

| 申請 番号 | 運行 系統名 | 起点 | 主 な 経 由 | 終 点 | 運 行 系 統 | | | | 年 間 輸 送 実 績 | | | | 経 常 収 益 | | | | 1系統当り 経常費用 (円) | 平 均 乗 車 密 度 算 定 | | | | 輸 送 量 (A) × (G) | 市町村による 回数券購入等 の有無 | 備 考 | | | | |
|----------|---------------|-----|------------------|--------|-------------|--------------|------------------|----------------------|---------------------------|----------------|---------------------------|-----------------------|----------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|---------------------------------------|------------------------|----------------------------------|-------------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------|-----|-----------------------|----------------------------|--------------------------|----------------------------|
| | | | | | キロ程 (km) | 乗車キロ (km) | 輸 送 人員 (人) | 1人平均 乗車キロ (km) | 輸 送 人員 キロ (人・km) | 運 送 収 入 (円) | 実 車 走 行 キロ (C) (km) | 運 送 雑 収 (D) (円) | 営 業 外 収 益 (E) (円) | 計 (B) + (D) + (E) | 平均乗車 密度 (B) (人) | 平均乗率 (F) (%) | | 適用 日数 (G) (日) | 平均乗車 密度算定 (C) × (F) (人) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 運 行 回数 (A) (回) | 運 送 収 入 (B) (円) | | | | 運 送 雑 収 (D) (円) | 営 業 外 収 益 (E) (円) | 平均乗車 密度 (B) (人) | 平均乗率 (F) (%) |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 乗車キロ (km) | 輸 送 人員 (人) | | | | 輸 送 収 入 (円) | 実 車 走 行 キロ (C) (km) | 運 送 雑 収 (D) (円) | 営 業 外 収 益 (E) (円) |
| 1 | 京都線 58・56A | 比叡平 | 京六正門 | 三条京阪 | 12.0 | 15.8 | 1,293,116.4 | 1,293,116.4 | 8.1 | 1,293,116.4 | 36,428,956 | 141,744.5 | 420,521 | 916,248 | 37,765,725 | 100,885,230 | (59.87/1.1) + (56.72/1.1) * 365 / 730 | 52.9 | 4.8 | 75.8 | 有・無 | | | | | | | |
| 合計 | | | | | 12.0 | | 1,293,116.4 | 1,293,116.4 | | 36,428,956 | 141,744.5 | 420,521 | 916,248 | 37,765,725 | 100,885,230 | | | | | | | | | | | | | |

実態調査日 令和4年5月24日実施

【記載要領】

- この書類は、補助対象期間（補助金交付要綱第5条で定める期間）の前々年度（基準期間）並びに基準期間の前年度、基準期間の前々年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること（補助対象系統のみ記載すること）。（但し、前年度の補助対象期間に係る生活交通確保維持改善計画の添付書類として既に提出している場合は、基準期間の前年度及び基準期間の前々年度に係る様式第1-5の添付を省略することができる。）
なお、様式1-8に基づく申請については当該年度の実績について、補助対象期間の末日現在における状態に応じて、運行系統ごとに作成すること（補助対象系統のみ記載すること）。
- 申請番号は、生活交通確保維持改善計画認定申請書の申請番号と同一のものとすること。
- 起点及び終点は停留所名をもって記載し、主な経由は他の運行系統と区別できる停留所名をもって記載し、キロ程は小数点以下第1位まで記載すること。なお1往復を運行回数1回とし、循環系統の場合は、1循環を運行回数1回とする。
- 運行回数は、補助対象期間の前々年度（基準期間）中における1日の平均を小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。なお1往復を運行回数1回とする。
- 1人平均乗車キロは、運行系統ごとに実態調査に基づいて記載すること。
- 輸送人員キロは、輸送人員 × 1人平均乗車キロにより算出すること。
- 運送収入は、当該運行系統の補助対象期間の前々年度（基準期間）の運送収入について、原則として年1回以上実態調査を実施し、その結果により算出すること。また、実態調査日についても記載すること。
- 実車走行キロは、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出して記載すること。
- 平均乗率率は、補助対象事業者の実車走行キロ当たり経常費用に当該系統の実車走行キロを乗じたものとする。
- 平均乗車密度は、(B) ÷ (C) ÷ (F) と計算し、その値について、小数点第1位（第2位以下切り捨て）まで算出すること。
- 備考欄には、補助対象期間の前々年度（基準期間）中に運行回数の変更があった場合、ストライキ、積雪等の理由によりバスが運行されなかった期間があった場合又は運賃改定があった場合等特記すべき事項について、変更年月日又は期間及びその内容を記載すること。
- 各運行系統のキロ程、輸送人員、輸送人員キロ、運送収入、実車走行キロ、運送雑収及び営業外収益の合計欄については必ず記載すること。
- 市町村による回数券購入等の有無は、運送収入に含まれるもの有無について記載すること。
(注) 上記、記載要領中3.以降において、前々年度（基準期間）とあるのは1.但し書きに該当しない場合は、基準期間の前々年度、基準期間の前年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度、基準期間の前々年度と読み替えるものとする。

